

試験日: 2024 年 7 月 16 日	担当者: ○○ ○○
検体名: A 弁当	ロット: 053

## ■一般生菌数

5.0×10<sup>3</sup>

CFU/g (mL)

培地名: コンパクトドライ TC

培養条件: 35℃、48 時間

**コメントの追加 [SDC1]:** 結果データの記入手順について (例: 一般生菌数)

※①、②、③の順にご覧ください

**コメントの追加 [SDC2]:** ③ 最後に、菌数の記載については、②で得られた数字 (集落数の平均値に希釈倍率を乗じる) の上位 3 桁目を四捨五入して、上位 2 桁を有効数字として表示し、食品 1g (1 mL) 当たりの報告菌数として記載します。この例の場合、算定された数字が 50×100=5,000 です。そのまま 5,000 あるいは 50×10<sup>3</sup> または 5.0×10<sup>3</sup> と記載します。

**コメントの追加 [SDC3]:** ① まず、コンパクトドライに発育した集落数をこちらの表に記入します。300 個以下の集落数をご記入ください。

【例外】

+: 300 個以上の集落数

-: 菌の発育が認められない

**コメントの追加 [SDC4]:** ② 次に、集落数 30~300 個の範囲にあるコンパクトドライの希釈倍率、集落数とその平均値を算出し、平均値と希釈倍率をかけ合わせます。

コンパクトドライに発生した集落数を記入してください。

	試料の希釈倍率と集落数							
	10	倍	100	倍	1000	倍	10000	倍
1 枚目	+	個	55	個	5	個	-	個
2 枚目	+	個	45	個	4	個	-	個

集落数が 30~300 CFU の範囲にあるコンパクトドライは 100 倍

その希釈倍率での集落数 1 枚目 55 2 枚目 45 平均値 50

平均値×希釈倍率 50×100

※得られた値の上位 3 桁目を四捨五入にて (有効数字は 2 桁)、食品 1g (1mL) あたりの菌数として表示します。

最小希釈倍率の菌数が 30 個以下の場合、最小希釈倍率 (10 倍) に 30 を乗じて 10×30 = 300 とし、菌数は、< 300 あるいは < 3.0×10<sup>2</sup> CFU/g と表示します。

最小希釈倍率の菌数が 30 個以下の数値も参考値として記載してください。

## ■大腸菌群数

&lt;300 (参考値 50)

CFU/g (mL)

培地名: コンパクトドライ EC

培養条件: 35℃、24 時間

コンパクトドライに発生した集落数を記入してください。

	試料の希釈倍率と集落数							
	10	倍	100	倍	1000	倍	10000	倍
1 枚目	6	個	-	個	-	個	-	個
2 枚目	4	個	-	個	-	個	-	個

集落数が 30~300 CFU の範囲にあるコンパクトドライは - 倍 (10 倍)

その希釈倍率での集落数 1 枚目 6 2 枚目 4 平均値 5

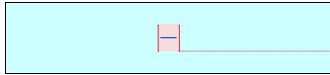
平均値×希釈倍率 5×10

※得られた値の上位 3 桁目を四捨五入にて (有効数字は 2 桁)、食品 1g (1mL) あたりの菌数として表示します。

最小希釈倍率の菌数が 30 個以下の場合、最小希釈倍率 (10 倍) に 30 を乗じて 10×30 = 300 とし、菌数は、< 300 あるいは < 3.0×10<sup>2</sup> CFU/g と表示します。

最小希釈倍率の菌数が 30 個以下の数値も参考値として記載してください。

## ■大腸菌数



CFU/g (mL)

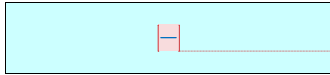
培地名 : コンパクトドライ EC

培養条件 : 35°C、24 時間

青色～青紫色集落が形成された場合、集落数をカウントしてください。

**コメントの追加 [SDC5]:** コンパクトドライ EC で青色～青紫色集落の有無の確認をしてください。集落が確認されない場合は－（陰性）です。

## ■黄色ブドウ球菌数



CFU/g (mL)

培地名 : コンパクトドライ X-SA

培養条件 : 37°C、24 時間

水色～青色集落形成された場合、集落数をカウントしてください。

※すりガラス状の薄い水色集落が発生した場合は、陽性としません。

**コメントの追加 [SDC6]:** コンパクトドライ X-SA で青色～青紫色集落の有無の確認をしてください。集落が確認されない場合は－（陰性）です。

## 結果データの記入手順

- ① コンパクトドライの各希釈倍率の集落数を記入します。  
+ : 300 個以上の集落数  
- : 菌の発育が認められない
- ② 希釈倍率と 2 枚のコンパクトドライの結果から平均値を算出し、平均値と希釈倍率をかけ合わせます。
- ③ ②で得られた数字の上位 3 桁目を四捨五入して、上位 2 桁を有効数字として表示し、食品 1 g (1 mL) 当たりの報告菌数として記載します。

CFU (Colony Forming Unit) : 生菌数の単位、集落数